

AICHI  
PREFECTURAL  
MUSEUM  
OF  
ART

MEMBERSHIP

愛知県美術館友の会 会報 第46号

# 空中回廊

コレクション展「アイチアートクロニクル 1919～2019」

会員のひろば：一泊ツアーレポート / 懇親日帰りバスツアーレポート

総会・記念講演会、友の会講座

次回展覧会予告：「あいちトリエンナーレ 2019」 / 友の会講座

愛知県美術館コレクションから パウル・クレー 《回心した女の墮落》



パウル・クレー 《回心した女の墮落》(部分) 1939年

ひと目で解る!

コレクション企画

# アイチアートクロニクル1919-2019

2019年 4月2日(火)~6月23日(日)

**愛** 知県美術館がリニューアルオープンを迎える2019年からちょうど100年前の、1919年。これは「愛美社」(用語解説※2)の第1回展が開催された年です。「アイチアートクロニクル(※1)1919-2019」では、この年を起点とする100年の間に起きた、愛知のアートシーンにおける様々な潮流や事件、さらにはアートシーンに影響を及ぼした人・モノを紹介する展覧会です。



大沢鉦一郎  
《ジンベを着たる少女》  
1920年

**愛** 知では古くから、官民一体となって県下の産業・文化振興が図られてきました。尾張本草学の興隆を背景とした物産会をベースに大須に誕生した工芸博物館(のちの愛知県博物館)や愛知教育博物館、かつて鶴舞公園を賑わせた名古屋市公園美術館や鶴舞公園付属動物園、名古屋港の私設名古屋教育水族館など、明治大正昭和を通じて様々な文化

施設がつくられてきました。そして1989年の世界デザイン博覧会、2005年の愛・地球博、2010年から開催されているあいちトリエンナーレなど、戦後も数々の大規模な博覧会などが催されてきました。

**ま** た一方で、1920年代に興隆した洋画壇を皮切りに、時代 空気に反応した数々の出来事が愛知のアートシーンを彩り活気付けてきました。30年代のシュルレアリスムの画家・写真家たちの活発な活動をはじめ、40-50年代の混乱と復興、60-70年代の反芸術(※5)とオフ・ミュージアム(※6)の動き、80-90年代のギャラリーが牽引して生み出した「現代美術の名古屋」イメージや多



尾沢辰夫《鴨》1938年

彩なアート・コレクション、さらには00-10年代の官主導の公募展や芸術祭…。

**こ** の展覧会では、愛知県美術館と名古屋市美術館、豊田市美術館をはじめとする東海地域のコレクションにより、これまで点でしか語られてこなかった出来事を有機的に結び付けようとする

1923年 サンサシオン(※4)

1937年~1939年  
ナゴヤアバンギャルドクラブ

1945年  
終戦

1920年代  
洋画壇の隆盛

1930年代  
シュルレアリスムの  
画家・写真家たちが活発に活動

1940年代  
混乱と復興

1950年代

1919年  
愛美社の第1回展

1935年  
徳川美術館 開館

1955年  
愛知県文化会館美術館  
開館



竹田大助《牧神の朝》1953年

るものです。100年という長いスパンで通時的に愛知のアートシーンを通観することにより、人々が「何となく」感じてきたであろうその特異性を、視覚化するための一助となることでしょう。

そしてまた、ここ愛知において、1955年開館の愛知県文化会館美術館の流れをくみ1992年に開館した愛知県美術館はどのような役割を担い、これから先どこへ向かうべきか。美術館そのものの存在意義をみなさんと共に考える、そんな展覧会となっています。

◆クロニクル(※1)

年代の順を追って出来事を編集した歴史のこと。

◆愛美社(※2)

大沢鉦一郎が1917年の草土社名古屋展に強い感銘を受けて同年、宮脇晴らと共に結成した美術グループ。愛知県美術館所蔵の《大曾根風景》をはじめ、対象に肉薄する描写を模索した。

◆草土社(※3)

岸田劉生を中心に、木村莊八や豊橋出身の高須光治らが結成した美術グループ。1915年に現代の美術社主催第1回美術展覧会を開催したのが実質上の草土社第1回展となる。岸田は当時デューラーなど北方ルネサンスに傾倒しており、他の同人と共に写実に重点をおいた作品を生み出す。同グループは1922年第9回展を開催後自然解消した。

◆サンサシオン(※4)

1923年、20代前半の若者だった鬼頭鍋三郎、松下春雄らが結成した美術研究グループ。メンバーの中野安次郎が所有していた覚王山の温室をアトリエとして用いた。「感覚」を意味するグループの名は、詩人の春山行夫による。

◆反芸術(※5)

1950年代後半から60年代にかけて日本各地で生じた美術の動向で、名古屋ではゼロ次元がよく知られている。従来の絵画や彫刻には用いられることなかった日用品や廃物などを素材に、挑発的なパフォーマンスや作品を展開した。

◆オフ・ミュージアム(※6)

直訳すれば「美術館の外」。1960年代に登場するアースワークやパブリック・アートなど、設置場所の地理的、歴史的な文脈を重視する表現を総称して呼ぶ。美術館に移設することが物理的に不可能であることで、これらの作品はときに美術館の制度や機能から逃れたり、それを批判したりする。



森 眞吾《きいろの角》1964年

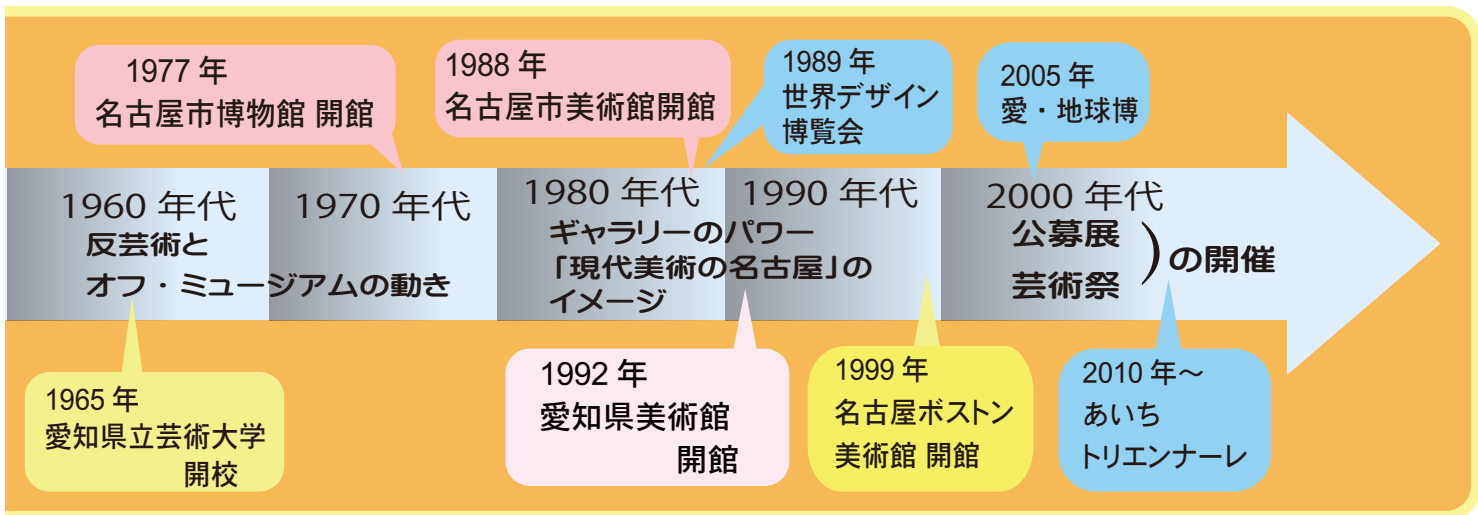


吉本作次《中断された眠りII》1985年

Message メッセージ

最初はさらっとしたコレクション企画を考えていたのですが、いつの間にかやら愛知の美術100年をたどるなどと大風呂敷を広げてしまい、自分で自分の首を絞めてしまいました(笑)。調査の範囲も100年に渡るので、たいへん楽しく(?)展覧会準備を進めています。いわゆる「名品」ばかりではないかもしれませんが、愛知のアートシーンを揺るがせてきた多種多様な表現の数々、どうかお楽しみに!

(副田一穂 担当学芸員)



# 会員のひろば

## 会員限定 一泊ツアー

5月18日～19日にかけて、一泊ツアーが開催されました。今回の目玉は昨年開館した「富山県美術館」です。

前の美術館は、展示室が円形で吹き抜けのある素敵な建物でしたが、新しい美術館は内藤廣氏の設計によるモダンな建物です。

入場前に記念撮影を行っている、なんと以前愛知県美術館副館長で現在富山県美術館館長である雪山さんをご挨拶に来てくださって、久しぶりの対面に感激もひとしおでした。

「オノマトペの屋上」と名付けられた屋上は、8種類の遊具が設置されて遊び



富山県美術館にて雪山館長と



オノマトペの庭にて

ながらアートやデザインを学べる空間で、天気が良ければ立山連峰まで見える絶景スポットです。展示室は3階建てで、大勢の人でにぎわっていました。

今回のツアーでは、個人で行くのはなかなか難しい「発電所美術館」や「石川県七尾美術館」などが盛り込まれ、最後は「金沢21世紀美術館」で前愛知県美術館館長の島さんを交えてのレストランビュッフェ。充実した旅行となりました。



発電所美術館は建物も素敵です



富山県水墨美術館では学芸員さんから建物や庭の説明もしてもらいました



石川県七尾美術館にて「長谷川等伯展」を鑑賞しました



おなじみのプールにて水中?からも手を振っています



島館長と昼食を楽しみました



夜は飲み比べをする方も...

## 会員限定 懇親日帰りバスツアー

2018年10月27日

見学先 国立民族学博物館

万博公園迎賓館

太陽の塔内部



太陽の塔の飾り物も!



隣接の結婚式場も見学



毎年恒例となっている懇親日帰りバスツアーが10月29日に開催されました。

今回の行き先は万博記念公園。まずは「迎賓館」で昼食です。その名のとおり、1970年の大阪万博の際には国内外からの賓客を迎えるために使われていた建物で、現在は改装されて結婚式場・披露宴会場として使われています。予定よりも早く到着してしまったので、昼食の準備が整うまでの時間を利用して建物内の隅々まで見学させていただきました。今回の昼食は宴会場で洋食のフルコース!友の会のバスツアーの歴史の中で、最も豪華でした。

昼食後は国立民族学博物館を自由鑑賞し、最後に今回のツアーの目玉として、太陽の塔の内部

を見学しました。私は万博当時の様子は知りませんが、「大阪万博当時に来て以来48年ぶり」という方も何人かいらっしゃったようで、懐かしそうに鑑賞されていました。



シェフから料理の紹介



膨大な展示を選んで鑑賞



太陽の塔の内部は撮影禁止。太陽の塔公式 Web ページなどをご覧ください。



## 2018 総会 記念講演会

2018年7月27日



行ってきます



トロント空港、デトロイト経由で帰国

## 「作品借用の裏側 ー海外出張を通してー」 講師 古田浩俊氏(愛知県美術館副館長)

古田副館長が2015年5月中旬に海外出張された目的は2016年1月開催の「ピカソ、天才の秘密」展準備でした。ワシントン・ナショナル・ギャラリーをはじめとする、アメリカやカナダの著名な美術館を訪問されたそうです。そのときの訪問先の美術館のスライドと説明に加え、飛行機の突然のキャンセルやホテル探しなどの現地ならではの苦労話をまじえた大変興味深く、臨場感あふれるお話を伺うことができました。

作品借用については、作品を貸してくださいと依頼状を出してもなかなか貸してもらえず、貸していただけるのは100通中の1、2通くらいだそうです。そのため、現地へ赴き直接顔を合わせる、という海外出張は重要であると感じました。

また場合によっては交換条件で貸してもらうこともあるため、交換条件にあたる作品をこちら側がどれだけもっているかということが重要だとのこと。愛知県美術館には、海外から貸してほしいと言われることの多いクリムト、ピカソ、モディリアーニなどのコレクションがあります。こうしたコレクションが、企画展開催に向けて重要な存在であることを初めて知り、印象に残るお話でした。



フィラデルフィア美術館へ駅から歩いて行くには…



ワシントン・ナショナル空港 NYに移動します



フォッグ美術館展示室 貸してもらえませんでした



ワシントン・ナショナル・ギャラリー地下連絡路



フィラデルフィア美術館への近道 上の道から草の斜面を降りる



フォッグ美術館入口、ケンブリッジ ハーバード大学附属の美術館です

## 友の会講座

2018年11月18日

## 「書的美を楽しむ」 講師 四辻秀紀氏(徳川美術館 学芸部長)

高校時代、日本史で得点するために「三筆は嵯峨天皇に空海にあとは？三蹟は小野東風に藤原なんとかと…」と丸暗記していたのですが、実際に書いたものを見たことがなく、何がよいのかピンときていませんでした。

当日は四辻先生が用意して下さった膨大な「書」の、ポイントを耳にしながらの鑑賞です。線のうつくしき、「墨継ぎ」が生みだすリズムや立体感、変化する書のスタイル…。人名や知らない用語に必死について行く合間、書き手の個性にくすりとしていると、講座の時間はあっという間に過ぎてしまいます。

「書いたものには人の個性が表れる」とのこと。今後はそれが最もよく表れる、懐紙や短冊に注目してみようと思います。内容を解説するところからのスタートに捉われず、見た目と共に「これを書いたのはどんな人なのかな」と想像しながら鑑賞することで、深淵なる書の世界へ、一歩踏み出すことができそうです。



書を見る楽しみを話す四辻先生



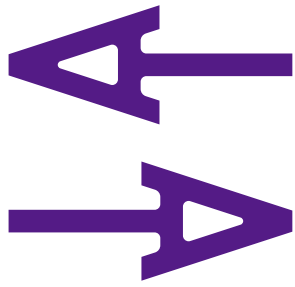
まずは書的美しさを味わうことが大切



いろいろなスタイルの書を鑑賞



墨継ぎの美しさを味わいます



**情の時代**  
**あいち**  
**トリエンナーレ**  
**2019**  
 AICHI TRIENNALE 2019:  
 Taming Y/Our Passion

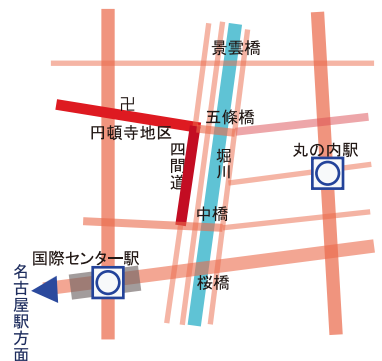
テーマ：情の時代 Taming Y/Our Passion  
 会場：愛知芸術文化センター  
 名古屋市美術館  
 四間道・円頓寺地区など  
 豊田市（豊田市美術館及び  
 豊田市駅周辺のまちなか）  
 芸術監督：津田大介  
 （ジャーナリスト／メディア・アクティビスト）

「あいちトリエンナーレ 2019」における新たな試みとして、美術や音楽の垣根を越えた祝祭感のある音楽プログラムを実施します。あいち芸術文化センターやオアシス21などを回遊しながら楽しむことのできる「あいちトリエンナーレ 2019 MUSIC&ARTS FESTIVAL」のほか、四間道・円頓寺地区においても展開します。

あいちトリエンナーレは2010年より3年ごとに開催されている国内最大規模の国際芸術祭です。4回目となる2019年は、現代美術のほかに、パフォーマンスアーツ、映像プログラム、音楽プログラムなど、様々なジャンルの芸術作品が紹介されます。

**会 期**  
**2019年8月1日【木】～10月14日【月・祝】**

名古屋駅と名古屋城のほぼ中間に位置し、下町の情緒を残す町並みのある地区。蔵や町家などの残る保存地区「四間道」と、飲食店や日用品店の並ぶ「円頓寺」での展示を予定しています。



友の会講座

**「あいちトリエンナーレ 2019 準備の舞台裏」**  
**講師 トリエンナーレ推進室 塩津青夏氏**

きたる2019年8月1日、第4回目のあいちトリエンナーレが開催されます。今回はその準備で奔走されている塩津青夏氏から、お話いただきました。

既にツイッターなどの電子メディアでは芸術監督やテーマ等、矢継ぎ早に発信されています。内容を知っている人にとっては情報の背景や意図を深く知ることができ、知らなかった人にとっては芸術祭への興味を掻き立てられるお話でした。

例えば今回の芸術監督は津田大介氏。肩書きだけ見ればアートとは関係ないのではないかと疑問が湧きますが、実はアートとかかわりのある活動をされ



ており、アーティストの人脈も広い方です。福島でイベントを開催し、多くの人を集めたという実績をお持ちです。

特に津田氏の「われわれは、情によって情を飼いながら（tameする）技（ars）を身につけなければならない。それこそが本来の「アート」ではなかったか」という言葉がカッコよく、この方がプロデュースするトリエンナーレが楽しみになりました。

## パウル・クレーの解けない絵画

《回心した女の墮落》はクレーが亡くなる前年に制作した、最晩年の作品です。謎めいたタイトルを持つこの作品が意味しているものは何なのか、ここで少し検討してみたいと思います。ドイツ語の原題 Rückfall einer

Bekehrten の Rückfall は「墮落」と訳されていますが、「もとの悪い状態に逆戻りする」というニュアンスがあります。胸元の十字架を考慮しつつ素直に解釈すれば、描かれているのは、かつてキリスト教に回心したが、再び 教えに背いた女性となります。女性は身体をばらばらに分断され、目を見開き、歯を見せて叫ぶように口を開けてい

ますが、赤い背景が炎を示すのであれば、死後に人の罪を浄化するという煉獄の炎に焼かれていると解釈することもできるでしょう。さらに作品が制作された当時の歴史的な背景を思い起こせば、女性の「再」墮落は、第一次大戦敗戦後の反省を経てなお戦争へと向かうドイツの隠喩であるとも考えることもできるかもしれません。

しかしいくら解釈

を進めてみたところで、《回心した女の墮落》がもつ根本的な謎は解ける様子がありません。というのも、描かれているそれぞれのフォルムは一体何を意味するのか、がはっきりとしないからです。ただ、これらのフォルムを純粋に造形的な要素であると片付けるわけにはいかなそうです。これらは解釈されることを待っている記号なのです。

「記号」は複雑な概念ですが、ここではひとまず「ある恣意的な約束事によって解読されるべきフォルム」として考えてみたいと思います。《回心した女の墮落》にはクレー独自の記号がいくつか存在します。たとえば女性の顔を斜めに横切る直線と二つの点は鼻を

示し、顔の右側に浮いているS字の線のある長方形は耳を示しています。さらに頭部の下に連続する円形は、身体の部分と部分の接合部(ここでは首)を表していると考えられます。これらの記号が示す意味は、見た目からはすぐに解読することが難しく、同時期のクレーの作品に登場する記号の用例と見比べることでじめて明らかになります。ただ、それでも全ての記号が解読できるわけではないようです。

重要なのは、《回心した女の墮落》では、全てのフォルムが同じ描き方で描かれているという点です。通常、記号はそれ以外のものと

は区別した描き方で示されます。たとえば地図では、実物と形状が類似するように描かれる地図自体に対して、太い輪郭線を用いた幾何学的なフォルムで地図記号が表されます。たとえその記号の意味を知らなくても、一目でそれが記号とわかるように示されるのです。しかしクレーの晩年の作品では、記号と純粋に造形的なフォルムが、描き方のレベルで区別されていないので、すべてのフォ

ルムが記号として解読されうる予感を湛えています。「意味されるもの」をもたない「意味するもの」という矛盾をはらんだ存在が立ち現れてくるのです。

私たちはこの作品を前にして、描かれているフォルムは、いま見えているものとは別の何かを指し示しているという予感の中で、自らの記憶と画面とを絶えず行き来することになります。《回心した女の墮落》には、私たちが通常イメージを見る際のプロセスを宙吊りにする特別な仕掛けが存在するのです。



パウル・クレー Paul KLEE  
《回心した女の墮落》  
1939年  
油彩・グアッシュ、紙  
49.5cm×35.0cm

# パウル・クレー

## 《回心した女の墮落》



黒田和士

-Kazushi Kuroda-

学芸員の横顔

愛知県美術館学芸員。改修工事休館中は所蔵品の写真整理に奮闘しました。写真はコレクション検索で順次公開されます。



## 理事会から

愛知県美術館は間もなく長い改修工事期間を終え、4月からリニューアルオープン記念の企画展が開催されます。県美の多彩なコレクションを生かしての、愛知百年のアートシーンをたどる企画展。どんな展示になるか期待が高まります。

そこで、友の会もリニューアル。友の会の情報発信を、より速やかにするために情報システムを新しくしました。そのため、事務局のメールアドレスやWebページのアドレスが4月から変更されます。ご迷惑をおかけしますが、ご了承ください。

これからも愛知県美術館とともに、新しい活動に向けて進んでまいります。ご協力、よろしくお願いいたします。  
(友の会会長 小林克敏)

## 友の会から

### ■友の会事務局の体制

	連絡方法	事務局在席曜日
2019年 3月まで	郵便・FAX Eメール	なし
2019年 4月から	郵便・FAX Eメール・電話 電話は右記のみ	火曜日 木曜日 土曜日

### ■イベントへの申し込み

Webページからのイベント申し込みも可能になっています。新しい情報は随時更新しますので、ご確認ください。

### 編集後記

沈丁花の香、昨日とは違うきらめき。春の兆しを見つけてひと頑張りするあなたに、またひとつ「お楽しみ」をお届けします。新たな一歩を踏み出した愛知県美術館でお目にかかりましょう。

- 編集 松下智子 井上真紀子/稲垣真美代/富永晃一/喜田泉/小林克敏/森健次
- 協力 愛知県美術館
- 発行 2019年2月

## 第46号 友の会活動紹介 2018年5月～2019年2月

★…中面でご紹介しています

<b>5月</b>	友の会一泊ツアー★ (富山、石川方面)	<b>10月</b>	友の会講座 (塩津青夏氏)★ 懇親日帰りバスツアー★ (国立民族学博物館・太陽の塔)
<b>6月</b>	定例活動のみ	<b>11月</b>	友の会講座★ (四辻秀紀氏)
<b>7月</b>	友の会総会 記念講演会★ (古田浩俊副館長)	<b>12月</b>	定例活動のみ
<b>8月</b>	他館鑑賞会 (名古屋ボストン美術館)	2019年	
<b>9月</b>	定例活動のみ	<b>1月</b>	他館鑑賞会 (徳川美術館 蓬左文庫)
		<b>2月</b>	定例活動のみ



「ハビネス～明日の幸せを求めて」展について詳しい解説を聞きました



「書は語る 30cmのエスプリ」展の見どころを語る四辻秀紀氏

## 定例活動 (2018年5月～2019年2月)

所蔵品管理	モニター	発送	受付[イベント]	広報	ホームページ	理事会
17回	0回	3回	5回	4回	随時更新	5回

## 友の会 2019年の活動予定

- 4月 コレクション展特別鑑賞会  
友の会講座
- 5月～7月 総会・記念講演会  
他館鑑賞会  
懇親日帰りバスツアー
- 8月 あいちトリエンナーレ  
特別鑑賞会

## これからの展覧会のご案内

愛知県美術館リニューアル・オープン記念  
コレクション企画  
**アイチアートクロニクル  
1919～2019**  
2019年  
4月2日(火)～6月23日(日)



あいち  
トリエンナーレ  
2019  
AICHI TRIENNALE 2019:  
Taming Y/Our Passion

2019年  
8月1日(木)～  
10月14日(月・祝)

## 友の会入会のご案内

友の会の詳しい活動内容を知りたい方、入会をご希望の方は事務局(右記)までお問い合わせください。入会のご案内パンフレットやホームページでも詳しく紹介しております。ぜひご覧ください。

★愛知県美術館 10階受付 ★友の会事務局

メールアドレスが  
かわりました

## 愛知県美術館友の会

〒461-8525 名古屋市東区東桜一丁目13-2  
愛知県美術館内(愛知芸術文化センター10階)

tel.052-971-5511(代)  
(火・木・土10:00～16:00)

fax.052-971-5617

愛知県美術館友の会 検索

info@apmoa-tomo.com

愛知県美術館ホームページ

www-art.aac.pref.aichi.jp

twitter @apmoafriends